

幼 兒 教 育

第二十一卷
第一一號

大正十年一月十五日發行

社會の趨勢と本會の計畫

○先づ地固めが必要

近來は、學校問題といへば、どうも上の方に延びることに急で、高等専門教育機關の施設といふことが盛んに計畫され論議される。勿論、これも、大切であるが、しかし、一方に下の方の教育を忘れてはならぬ。家をたてるまへには、先づ地固めが必要である。その上にたつ建築が複雑になるほど地盤がしつかりしてゐなければならぬ。高等教育を完全にしようとするには、その土臺の注意が大切である。いつの間にか、教育は小學校から初まるものゝ様になつてしまつて、口には、家庭教育の何のといひながらその方法如何は、考へられてゐない。幼稚園は出來た、しかも、まだ、これに關する法律も一向整理されて居らず、保姆の待遇の規定も曖昧で、政府のこ

日本幼稚園協會長 湯 原 元 一

れに對する態度は、遺憾ながらまだ、徹底してゐない。このことは、實に年來の宿題で早く解決しなければならぬし、また一方、幼稚園の教育といふものも今迄のまゝで満足して居るわけには行かぬ。

○託兒所の保姆

しかるに、今や兒童の問題は、たゞに、有福な家の子供を集めて保育するといふこと以外に、貧兒の保護といふ問題になつて來た。兒童保護問題は、社會問題の重要な位置をしめることゝなり、政府はこの事に關しては、相當の費用を出して、著々そのことに従事するに至つた。しかして、兒童保護の問題に必要なことは、先づ託兒所の設施といふことである。しかし託兒所は出來ても、そこに働く保姆にその人を得なければ何うもならぬ。

そこで我が日本幼稚園協會は、たゞに從來の幼稚園に關しての諸種の研究を繼續するにとゞまらず、更に、託兒所の方面に向つても大に注意して、その完成のために貢獻するところあらねばならぬ。今迄あるところの保姆養成機關で満足しては居られぬ。即ち本會は當局の了解を得て、託兒所むきの保姆養成に著手したく、本年はその實行のために努力したのである。これは本會の計畫してゐる事業の一斑にすぎないがもつと必要なことは國民一般に

○兒童保護についての注意を促す

氣運をつくるといふことである。それには、本會が、此處に聲を大にして、その趣旨の普及徹底に力をつくしたいと思ふ。本會が今度全國の學校關係は勿論、工場主やその他、感化事業、保護事業など、苟も兒童に關係ある方面に、趣意書ならびに會員募集の書面を送つたのはこのためである。

こればかりではない。その宣傳の第一歩として、本年一月を期して、子供デーを催したいのである。それに關する具體的の案については、追つて他の方法で發表するつもりであるが、まづ、私一個の考へ

としては、この子供デーには大講演會を開き、社會知名の士を聘して、兒童教育が如何に大切であるかといふことについての講演をねがふつもりである。

その他本郷區を初め東京市各區に於て一齊に講演會を開くようにしたい。又、種々の婦人團體の方々にお願ひして、充分に活動をして頂きたいと考へてゐる。

婦人と子どもとは、離れがたい關係があるもので婦人の力によつて、是非、この空氣を、家庭の隅々まで入れてほしい。また、上流、中流、勞働者のその階級の如何をとはず、子供を丈夫に賢く育てるといふことが、如何に大切なことであるかを想ひ、しかして貧しいために、その愛兒を充分養育出来ないといふことは誠に殘念な悲しむべきことであるから工場に關係ある方々には、女工達の家庭に、貧民救濟に従事してゐる方々には、その人々の間に、この思想の普通を計つて頂きたいと思つてゐる。

當日は市内に宣傳ビラを配るため、兒童教育の大切な意味を格言にして印刷配布したいと思ふ。學校教育者、婦人團體、内務、文部、農商務各省、市當局等總が、よりで大々的にやりたい積りである。この計畫のためには切に諸賢の贊助後援を願ふ次第である。

(文責記者)